

内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) に関する説明・同意書

内視鏡を用いて、胃・大腸・食道など消化管内にできた腫瘍を切除します。

【方法】

電気メスを用いて腫瘍の周辺に印を付けて切除する範囲を決めます。続いて、その印の外側を電気メスで全周切開します。その後、切除すべき粘膜部分の下(粘膜下層)を電気メスで剥離します。

切り取った病変は内視鏡で体外に取り出して、顕微鏡で十分に検査します。腫瘍細胞が予想以上に深くもぐっていたり、血管・リンパ管の中に入り込んでいる場合は転移の可能性がありますので、追加の外科的手術を勧める場合があります。

【偶発症】

多少の出血は必ずありますが、ほとんどは治療中に止血できます。しかし術後に出血する可能性もあり、内視鏡による追加の止血処置や輸血が必要なこともあります。まれに外科的手術による止血が必要なこともあります。また、切除に伴い穿孔(穴が開く)がまれに起こることがあります。小さな穿孔は絶食と抗生剤投与による保存的治療法にて軽快することもあります。場合によっては緊急的な外科手術が必要なこともあります。また、内視鏡処置中に唾液などが肺に流れ込むことで肺炎が起こり得ます。多くは抗生剤投与で治療できますが、高齢の方、肺の病気をお持ちの方などは治りにくい場合があります。これら以外にも偶発症が起きた際には迅速かつ適切な治療を行います。

私または家族(代理人)は、主治医(説明医)より処置の目的、方法、危険性について説明を受け、理解することが出来ましたので、施行に同意します。

29 年 11 月 14 日

患者署名

家族(代理人)署名

主治医(説明医)署名

同席者署名



医療法人 財団 康生会
武田病院